

マチンの公式

O を原点とする xy 平面の y 軸上に点 $A(0, 1)$ をとり、 x 軸上に x 座標が正整数であるような3点 $P(p, 0)$, $Q(q, 0)$, $R(r, 0)$ をとる。

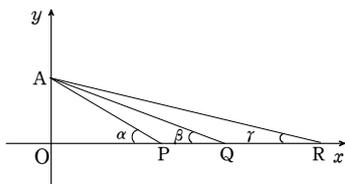
ただし、 $p \leq q \leq r$ で、 P, Q, R のうち互いに重なるものがあったとしてもよいものとする。いま、 $\angle APO + \angle AQO + \angle ARO = \frac{\pi}{4}$ であるように

P, Q, R をとりたい。そのとき、

- (1) p のとりうる値を求めよ。
- (2) p, q, r の値の組をすべて求めよ。

< '87 埼玉大 >

【戦略】



$\angle APO = \alpha$, $\angle AQO = \beta$, $\angle ARO = \gamma$ と設定します。

$\alpha + \beta + \gamma = \frac{\pi}{4}$ であり、これら α, β, γ は
$$\begin{cases} \tan \alpha = \frac{1}{p} \\ \tan \beta = \frac{1}{q} \\ \tan \gamma = \frac{1}{r} \end{cases}$$
 を満たしています。

- (1) p のとり得る値が限られるということを匂わせる設問です。

つまり、 p の範囲を絞ることを考えます。

p がとれる範囲が限られるということは、それに関連する角度 α についても制限があることが考えられるでしょう。

$0 < p \leq q \leq r$ という範囲を考えると、 $0 < \frac{1}{r} \leq \frac{1}{q} \leq \frac{1}{p}$ ですから

$0 < \tan \gamma \leq \tan \beta \leq \tan \alpha$ であり、これらは鈍角ですから、 \tan の大小と角度の大小はリンクします。

つまり、 $0 < \gamma \leq \beta \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$ ということが言えます。

α の範囲を絞りたいと思っていたので、

$$\alpha < \alpha + \beta + \gamma \leq \alpha + \alpha + \alpha$$

と絞ってやると、 $\alpha < \frac{\pi}{4} \leq 3\alpha$, すなわち $\frac{\pi}{12} \leq \alpha < \frac{\pi}{4}$ を得ます。

- (2) $\beta + \gamma = \frac{\pi}{4} - \alpha$ と見て、両辺に \tan の服を着せれば

$$\tan(\beta + \gamma) = \tan\left(\frac{\pi}{4} - \alpha\right)$$

となり、
$$\frac{\tan \beta + \tan \gamma}{1 - \tan \beta \tan \gamma} = \frac{\tan \frac{\pi}{4} - \tan \alpha}{1 + \tan \frac{\pi}{4} \tan \alpha}$$
 です。

これより、 $\frac{q+r}{qr-1} = \frac{p-1}{p+1}$ を得るため、(1) で得た p の値のときを

個別に調べればよく、この先は典型的な整数についての不定方程式の処理となります。

【解答】

- (1) $\angle APO = \alpha$, $\angle AQO = \beta$, $\angle ARO = \gamma$ とおく。

$$\text{このとき、} \begin{cases} \tan \alpha = \frac{1}{p} \\ \tan \beta = \frac{1}{q} \dots (*) \text{ を満たす。} \\ \tan \gamma = \frac{1}{r} \end{cases}$$

$$0 < p \leq q \leq r \text{ より、} 0 < \frac{1}{r} \leq \frac{1}{q} \leq \frac{1}{p}$$

$$(*) \text{ より } 0 < \tan \gamma \leq \tan \beta \leq \tan \alpha$$

$$\alpha, \beta, \gamma \text{ は鋭角の範囲内の角度であり、} 0 < \gamma \leq \beta \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$$

$$\text{また、} \alpha < \alpha + \beta + \gamma \leq \alpha + \alpha + \alpha$$

$$\alpha + \beta + \gamma = \frac{\pi}{4} \text{ という条件より、} \alpha < \frac{\pi}{4} \leq 3\alpha$$

$$\text{すなわち } \frac{\pi}{12} \leq \alpha < \frac{\pi}{4} \text{ で、} \tan \frac{\pi}{12} \leq \tan \alpha < \tan \frac{\pi}{4}$$

$$\tan \frac{\pi}{12} = \tan\left(\frac{\pi}{4} - \frac{\pi}{6}\right) = \frac{\tan \frac{\pi}{4} - \tan \frac{\pi}{6}}{1 + \tan \frac{\pi}{4} \tan \frac{\pi}{6}} = \frac{1 - \frac{1}{\sqrt{3}}}{1 + \frac{1}{\sqrt{3}}} = 2 - \sqrt{3}$$

(*) も加味すれば、 $2 - \sqrt{3} \leq \frac{1}{p} < 1$, すなわち $1 < p \leq 2 + \sqrt{3}$ であり、これを満たす整数 p は $p = 2, 3 \dots$ 圏

- (2) $\beta + \gamma = \frac{\pi}{4} - \alpha$ より、 $\tan(\beta + \gamma) = \tan\left(\frac{\pi}{4} - \alpha\right)$ であり

$$\frac{\tan \beta + \tan \gamma}{1 - \tan \beta \tan \gamma} = \frac{\tan \frac{\pi}{4} - \tan \alpha}{1 + \tan \frac{\pi}{4} \tan \alpha}$$

$$(*) \text{ より、} \frac{\frac{1}{q} + \frac{1}{r}}{1 - \frac{1}{q} \cdot \frac{1}{r}} = \frac{1 - \frac{1}{p}}{1 + \frac{1}{p}}$$

これを整理すると、 $\frac{q+r}{qr-1} = \frac{p-1}{p+1} \dots (**)$

- (i) $p = 2$ のとき (**) は $\frac{q+r}{qr-1} = \frac{1}{3}$

これを整理すると、 $qr - 3q - 3r - 1 = 0$

$$(q-3)(r-3) = 10$$

(2=) $p \leq q \leq r$ より、 $-1 \leq q-3 \leq r-3$ に注意すると

$q-3$	1	2
$r-3$	10	5

これより、 $(q, r) = (4, 13), (5, 8)$

(ii) $p=3$ のとき (**) は $\frac{q+r}{qr-1} = \frac{1}{2}$

これを整理すると、 $qr-2q-2r-1=0$

$$(q-2)(r-2)=5$$

(3=) $p \leq q \leq r$ より、 $1 \leq q-2 \leq r-2$ に注意すると

$$\begin{cases} q-2=1 \\ r-2=5 \end{cases}$$

これより、 $(q, r)=(3, 7)$

以上 (i), (ii) より、求める p, q, r の値の組は

$$(p, q, r)=(2, 4, 13), (2, 5, 8), (3, 3, 7) \dots \text{図}$$

【総括】

座標と \tan という薄皮一枚被った整数問題ですが、この薄皮を薄皮と感じられるかどうかは力の差です。

感覚的に、 $\alpha + \beta + \gamma = \frac{\pi}{4}$ なので、 $\alpha < \frac{\pi}{4}$ であることはある意味自明です。

また、 $\frac{\pi}{12} + \frac{\pi}{12} + \frac{\pi}{12} = \frac{\pi}{4}$ で、 α が一番大きな角であることを考えると

$\alpha \geq \frac{\pi}{12}$ というのも感覚的には当然です。

そうなってくると、 p にも制限がついてくることは決して無理のない発想ですから、ノーヒントであっても対応したいところです。

なお、今回得られた p, q, r の値について

$$\begin{cases} \tan \alpha = \frac{1}{2} \\ \tan \beta = \frac{1}{4} \\ \tan \gamma = \frac{1}{13} \end{cases}, \begin{cases} \tan \alpha = \frac{1}{2} \\ \tan \beta = \frac{1}{5} \\ \tan \gamma = \frac{1}{8} \end{cases}, \begin{cases} \tan \alpha = \frac{1}{3} \\ \tan \beta = \frac{1}{3} \\ \tan \gamma = \frac{1}{7} \end{cases}$$

が言えるため、 $y = \tan x$ の逆関数 $\text{Arctan } x$ を用いて

$$\begin{cases} \alpha = \text{Arctan } \frac{1}{2} \\ \beta = \text{Arctan } \frac{1}{4} \\ \gamma = \text{Arctan } \frac{1}{13} \end{cases}, \begin{cases} \alpha = \text{Arctan } \frac{1}{2} \\ \beta = \text{Arctan } \frac{1}{5} \\ \gamma = \text{Arctan } \frac{1}{8} \end{cases}, \begin{cases} \alpha = \text{Arctan } \frac{1}{3} \\ \beta = \text{Arctan } \frac{1}{3} \\ \gamma = \text{Arctan } \frac{1}{7} \end{cases}$$

と表せます。

$\alpha + \beta + \gamma = \frac{\pi}{4}$ ですので、

$$\text{Arctan } \frac{1}{2} + \text{Arctan } \frac{1}{4} + \text{Arctan } \frac{1}{13} = \frac{\pi}{4}$$

$$\text{Arctan } \frac{1}{2} + \text{Arctan } \frac{1}{5} + \text{Arctan } \frac{1}{8} = \frac{\pi}{4}$$

$$2 \text{Arctan } \frac{1}{3} + \text{Arctan } \frac{1}{7} = \frac{\pi}{4}$$

が成り立つわけです。

このことに関連する話題として、

$$4 \text{Arctan } \frac{1}{5} - \text{Arctan } \frac{1}{239} = \frac{\pi}{4}$$

という等式があり、「マチンの公式」と呼ばれます。

【マチンの公式の証明】

$\tan \theta = \frac{1}{5}$ となる θ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) を考える。

このとき、

$$\tan 2\theta = \frac{2 \tan \theta}{1 - \tan^2 \theta} = \frac{2 \cdot \frac{1}{5}}{1 - \left(\frac{1}{5}\right)^2} = \frac{5}{12}$$

$$\tan 4\theta = \frac{2 \tan 2\theta}{1 - \tan^2 2\theta} = \frac{2 \cdot \frac{5}{12}}{1 - \left(\frac{5}{12}\right)^2} = \frac{120}{119}$$

$$\tan\left(4\theta - \frac{\pi}{4}\right) = \frac{\tan 4\theta - \tan \frac{\pi}{4}}{1 + \tan 4\theta \tan \frac{\pi}{4}} = \frac{\frac{120}{119} - 1}{1 + \frac{120}{119}} = \frac{1}{239}$$

これより、 $4\theta - \frac{\pi}{4} = \text{Arctan} \frac{1}{239}$

一方、 $\theta = \text{Arctan} \frac{1}{5}$ より、 $4 \text{Arctan} \frac{1}{5} - \frac{\pi}{4} = \text{Arctan} \frac{1}{239}$

すなわち、 $4 \text{Arctan} \frac{1}{5} - \text{Arctan} \frac{1}{239} = \frac{\pi}{4}$ を得る。

本問で得た結果のように、マチンの公式にはそれに準ずるような類似形が
多々見つかり、

例えば、オイラーが発見した

$$\text{Arctan} \frac{1}{2} + \text{Arctan} \frac{1}{3} = \frac{\pi}{4}$$

なども有名です。